

●居場所に関する高齢者サポートセンターの意見一覧

テーマ：居場所へのつなぎについて“困っていること”“共有したいこと”“お願いしたこと”

令和5年度第2回市川市地域ケア推進会議	資料2
令和5年10月11日(水)	

No.	高齢者サポートセンター	困っていること	共有したいこと	お願いしたいこと/その他
1	国府台	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にサロンが元々少ない上にコロナ禍で2つサロンが終了した。これまで閉じこもり予防に対して、デイサービス以外にサロンを紹介することも多かった。自分で通えるサロンが少ないと介護保険や総合事業へつなぐ流れになりがちである。 ・国府台は坂が多く、バスなどの交通機関の停留所も遠いため、居場所への移動手段に困る。家族の支援を期待できない事が多い。居場所が民家や商店など地域内に分散してできれば参加しやすいのではないかな。 ・現在も地域にあるサロンを知らない高齢者も多い。男性が参加したいと思う内容が少ないせいで、男性高齢者は興味がないのでは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・高サポ職員が他のエリアの居場所（活動の場）をつなげにくいのは、その内容や雰囲気を知らないせいだと思う。とは言っても高サポ職員は居場所の把握に割く時間は無い。対象者と居場所のマッチングはSC業務が行なうのではと期待している。 ・担当地区の団地の住民から、「住民どうしの交流がない。そういう場や機会がない」との声は聞こえてくる。昨年、「サロン立ち上げ説明会」を社協と共に企画した時に、「体操をしたい」、「お酒を飲みながらお喋りをする」など希望が上がったがサロン立ち上げには至らなかった。反対に町公会館での麻雀や囲碁など趣味の会は発足や継続し参加数も増加している。高齢者がやりたい事は何なのか、から考える必要があると思う。 ・空き家、空き地、公園があり、サロンなどの集まりに有効活用できると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館等の公的な施設に、フレイル予防・認知症予防のゲームができる機器などを設置してみたらどうか。どこかのグループには入りたくないと思える高齢者も多いので、フレイル予防、認知症予防を考える高齢者が一人で行ける場があると行くのではないかな。そこで知り合った者同士が交流をきっかけに居場所ができることもあるのではないかなと思う。
2	国分	<ul style="list-style-type: none"> ・まず集まる場所があること ・高サポが情報をキャッチしていないと、そもそも情報提供ができない ・居場所・通いの場の情報、「『きょういく』ところ見つけませんか？」等の一覧を充実させる必要がある ・ホームページなどに公開はされていない集まりなどがあっても、知る機会も少なく、なかなか情報が共有しにくい ・相談時に情報提供するために、配布資料にのっていない情報や担当地域外も含めた情報が高サポ用の情報としてまとまっていることが必要。 ・居場所までの移動手段がない、集まれる場所自体にエリアの偏りがある。 ・そもそも居場所を探したいが、どう探して良いかわからないという人がある。 ・イスがあるかどうかで参加できるかどうか違ってくる人がある。 ・居場所のちらしがあれば、お誘いがしやすい ・いきいき健康教室に通っていた、ああいうのがあれば通いたいという話は今も出ている。 ・体操などわかりやすい居場所、通いの場があるとよい。 ・有料の体操教室があるが、費用的に負担ができる人に限られる。もう少し費用負担が少なければ参加しやすいと思う。 ・居場所の情報があっても、実際の状況、たとえばそのグループの活動の内容、費用、雰囲気、見学が可能か等までの詳細は不明であり情報がない。またグループの特徴、知り合い同士でやっている、新規の会員は受け入れていないなどは分からない ・情報提供しても自分で連絡し行動できる人でないとなつながらない。情報提供したが、連絡ができないなどつながらない人が多い 		
3	曾谷	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方の送迎（徒歩は可能なADLだが、道が分からなくなるため送迎が必要） ・行きたい気持ちはあるが、中距離で徒歩では体力的に困難な方の送迎 ・「居場所」まで徒歩以外の交通手段がなく通えない ・知人が車で送迎できなくはないが、万一事故（乗降時に本人が転倒し骨折、ドアに指をはさんで怪我をしたなど）があった際、手間賃等好意では補いきれない仕組み作り 		
4	大柏	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の居場所の詳細や特徴を高サポで把握しきれていないため、きめ細やかなつなぎが出来ていない。 ・またさらに公民館でのサークル活動等まで居場の紹介場所を広げると情報が少ない。 ・情報の集約やコーディネート機能、情報発信の媒体の多様性が必要だと感じる。 ・高齢者が気軽に集える場所が圏域には少ない（いきいきセンター等はない）。 ・軽度認知症で少しの声掛けがあればといったケースの場合、繋ぎ先がない。 ・多圏域に比べると社会資源が圧倒的に少ない。 ・個人トレーニングを希望する場合、適当な「きょういくところ」がなく、民間のスポーツジムか通所サービスかになってしまい中間的な社会資源がない。 ・圏域の特徴としてエリアが広く交通不便地域が多い。 ・逆に圏域内に介護施設等が多いので、住民への場所の提供等が進めばよいと思うが様々な課題がある。 ・新規立ち上げのためのリーダーの育成や住民への動機づけが難しい。 ・既存のサロンから体操の講師依頼があった際に、高サポより地域密着型の通所施設へ指導者の派遣をお願いし、今後は、直接やり取りをしてもらう様に調整をした経緯がある。そういった通所側の地域貢献に対して評価される仕組みがあるとよいと思う。 		
5	宮久保・下貝塚	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいき健康教室なき後、小地区で継続的に通える場が減り、活動をやめた人、介護サービスに流れた人が多くいた。（ふらっと立ち寄れる場が無い） ・圏域内に繋げる居場所の絶対数が少ないためアクセスが困難になっている。つまり、アクセスの困難さと居場所の数は深く関係しており、居場所を増やせばアクセスも解決しやすくなる。 ・居場所まで坂道や階段があり、1人では行けない方がいる。自宅から歩いて行くには遠い。（送迎してくれる家族は少ない） ・認知症があり日程や場所などの予定管理は困難だが、身体能力や作業能力はあり、介護サービスを望まず地域で役割や交流を得たい人々が複数いるが、場所や声掛けの問題からつなげれずにいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別のケースで1人ずつつなぎを完成させる迄にはそれなりの時間と労力を要する支援であることを理解してほしい。 ・介護サービスにつなげばよいのではなく、地域で地域住民として役割や交流がもてるのが重要だと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいき健康教室があった数に近い小地区での通いの場（住民主体・民間委託を含む） / 個別ケースの支援に対する精査・評価ではなく、地区から上がった課題や不足するものに対する見解・提案の検討をして欲しい。

●居場所に関する高齢者サポートセンターの意見一覧

テーマ：居場所へのつなぎについて“困っていること”“共有したいこと”“お願いしたこと”

令和5年度第2回市川市地域ケア推進会議	資料2
令和5年10月11日(水)	

No.	高齢者サポートセンター	困っていること	共有したいこと	お願いしたいこと/その他
6	市川第一	<ul style="list-style-type: none"> ・身体機能が低下してきている方は徒歩での外出を億劫になってしまう傾向にあるため、「趣味や楽しみのために少し離れた場所まで行く」ことが減ってしまう。(日用品等の買い物や病院受診は、本人達からしたら「必須」なことであるためタクシーなどを利用しても行く) ・近隣や友人同士で誘い合って行くとしても、基本的に徒歩となってしまうため、こちらから近所や徒歩圏内の集まりの場を提案しても、自発的に参加に至らないことも多い。 ・地区社協の場所がわかりにくく、情報提供をしたとしても参加に繋がらないことも多い。 ・情報収集が困難なケースが多くいると思われる。(スマホやLINEなど利用されている方も増えてきてはいるが、全体的に見たら少数ではないか) サークル活動の情報が病院や図書館など、高齢者が多く利用する場所でも掲示や配布されていると、情報収集の場が広がるのではないかと。 ・サロン等の立ち上げ支援をすることも、担い手として積極的に参加する方はほとんどいない。 		
7	市川第二	<ul style="list-style-type: none"> ・繋ぐための情報源の不足。家族がいる人はいいが、独居や家族が遠方だと、ネットやLINEの有効活用を本人ができるかは疑問。紙媒体では「きょういところ」しか情報提供の資料がない。 ・みんなで体操に興味を持って、参加条件があるため参加できない。 ・定年後もまだまだ元気で有償活動をしたい人も増えているが、現状シルバー人材があまり機能していないと最近聞いた。提供できるサービスがあまりないと感じる。 ・行きたくても移動手段がなく行けない人がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先日高サポに来所し(本人・娘)介護申請をした。デイサービスの希望があったが認定までに時間がかかるため「きょういところ」を見せると、コロナ前に通っていた教室があった。コロナで休みだったが再開したことを知らなかったとの事。同様に再開を知らない人がいるかもしれないと感じた。 ・サークル活動やサロンは誰でも参加できるとの触れ込みであるが、初めて行った方の中には「入りにくい雰囲気だった」と感じたり、メンバーが固定されていると感じたとの声があった。 また、近所でこういうことをしている所があると知らなかったとの声もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政主体での体操を開催したうえで、徐々に手が離れていくよう、地域で積極的に活動できる人を発掘する。 ・「いちかわ支え合いネット」の周知。図書館の検索端末のように、公的施設(公民館等)に簡単に検索できる端末の設置。 ・自分で何かしたいという人がどこに相談したらいいのか市民へ周知してほしい。 ・市内を走るコミュニティバスの充実。バス通りから離れている、乗り換えが不便な地域などに活用できるというのでは。または乗り合いタクシーなど。 ・地域活動に初めて行く人もなじめるように、地域活動サポーターのような人材を育成出来たらいいと思う。
8	真間	<ul style="list-style-type: none"> ・7月資料P6にある「場所」の中で、公民館、自治会館、集える広さの公園や老人会が真間にはない。 ・都内に出やすい土地柄ということもあり、地域内に『集まる場所』を必要としてこなかった可能性もあるが、気軽に集える場所がないことで、『身近な人と集う』という意識が低いと感じる。 ・年1回地区社協主催のふれあい演芸会が開催されているが、地区社協役員の推薦で参加者を決めているため、結果的に新規の出席者に繋がらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の拠点が地域ではなく、デパート(都内)の趣味講座やゴルフ(県外)といった高齢者が多く、年齢を重ね、続けていくことが難しくなっても、『地域で活動する』という発想に繋がらない ⇒地域との関わりが気薄で『家のことには構わないで欲しい』という住民に対して、高齢者になってから意識を変化させるのは難しい。 ・地区社協「よってこ」に来る方が同じメンバーで固定されており(高齢者+障がい者)、広さの問題もあり、新しい人は入りにくい雰囲気になってしまっている。(最近では固定の男性が多いと聞いている) ⇒近いけどあそこには行きたくないという話も耳にする。 ・地域内唯一の集会所(真間稲荷神社)は、半日利用で1,500円程度の費用が掛かる上、段差も多く、手すりも無いため、準備、片付けまでを考えると、使用できる高齢者は限られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サードプレイスと言われる場所が地域的に市川駅周辺に多く、移動出来なくなっても、通える場所にサードプレイスが増えて欲しい。 ・きょういところ、支え合いネット、ラインの情報などはスマホを使いこなせる世代といえない高齢者には難しい。家族向けには良い発信方法なので、SNSの活用は継続して貰いたい。興味のない人はそこまで調べることもないので、様々な世代に情報が行き渡らない。高齢者が目にしやすい場所(自治会掲示板や公民館等)に掲示も行ってほしい。 ・P14市川市には多様な居場所があるという資料について、15地区でどの程度充足されているのを知りたい。(真間はタイプⅠ、Ⅲは無いと思われる。)
9	菅野・須和田	<ul style="list-style-type: none"> ・近頃「タクシーが中々つかまらない」と市民より聞くことが増えた。 ・徒歩圏内の居場所が少ない。バス等の公共機関の本数・ルートが少なく移動の選択肢がない。 ・居場所毎の対象者、または役割の把握、住民の方々のニーズとマッチングさせられるような周知活動の手段の乏しさがある。 ・「居場所」までの移動手段がない人が多い。(徒歩で行けない、一人では無理など) ・住宅内や集会所だと場所が分かりづらいところや参加制限等があり、つながりづらい。 ・地域毎にマップがあるとわかりやすい。工夫が必要。 ・集まれる場所があっても場所が分かりづらい。交通手段が少ないとの声が聞かれることがある。 		
10	八幡	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所があっても、歩行が難しかったり、認知機能が低下していて、ひとりで行くことができない方々がいる。 居場所までの手段が必要。 ・土地勘がなく、家族の支援が難しくひとりで行けない。 初回だけでも同行して下さる方がいるとありがたい。 ・車等の送迎の移動手段が必要。 		

●居場所に関する高齢者サポートセンターの意見一覧

テーマ：居場所へのつなぎについて“困っていること”“共有したいこと”“お願いしたこと”

令和5年度第2回市川市地域ケア推進会議	資料2
令和5年10月11日(水)	

No.	高齢者サポートセンター	困っていること	共有したいこと	お願いしたいこと/その他
11	市川東部	<ul style="list-style-type: none"> ・活動場所があっても（知っているも）行く手段がない。（高齢者の運転トラブルのニュースを見て、運転や自転車を止める方が出ているが、徒歩で行ける範囲は限られる） ・バスなどを利用して移動できるが、身体機能が低下してきている方は長時間の立位保持が大変。 ・駅などバスの始発場所なら何本か見送り、座って移動できるが、多くのバス停が座って待つ場所がない、バス車内も座れず立っているのは厳しいので、家族や誰かの支援がないと単身での外出が遠のいていく。 ・バス停までの道のりが、車や自転車の交通量が多かったり道が悪かったり。 ・ケガや病気など、一時的に弱っていて、元気になったら今まで行っていた地域活動に参加したいが、歩けない。介護サービス利用にも手続きや時間が掛かるなら・・・と見送る人もいる。 ・活動場所の選択肢が少ない。運営する担い手の確保が難しい。 		
12	信篤・二俣	<p>1地域ケア信篤・二俣について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記拠点の認知度が低く、必要な方に情報が行き届いていない。 ・利用者が新型コロナウイルス感染症流行以降減っている。 <p>2その他の居場所について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二俣地域に“居場所”が少ない。 ・サークル活動等を行っている場所の立地が悪く、公共交通機関のアクセスが悪い。その為、メンバーが固定化し、新規の方が少ない。または入りづらい。 ・いきいき健康教室に通いたいという話は今も聞かれている。 ・活動内容や曜日・時間等以外の細かな情報が集約されていないため、紹介しにくい。また紹介しても、なかなか新しく入った方が続かない。 ・本人の希望と合致する該当団体が他圏域で通えない。 <p>3子ども食堂（みつば食堂）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点を移動して開催するので、多世代交流の場としても発展して欲しい（今年度新規事業の為応援したい） 		
13	行徳	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会会員のみの参加という所もあり、新しい人を迎え入れてもらえない。 ・すでに顔見知りの会となっている所に、新たに入りにくい。入ったとしても続かない。 ・居場所まで行く足がない。公共の乗り物に一人で乗り降りできない。送迎を使うと費用がかかり、そこまでして行きたくないになってしまう。 ・どこにあるのか、情報が住民に知られていない。広報をもっとして欲しい。 ・移動販売が憩いの場となっていたが、最近終了し、買い物に困る人が出て来た。代替の手段の検討をお願いしたい。 		
14	南行徳第一	<ul style="list-style-type: none"> ・担当圏域では、いきいきセンターが改修に入ったため、居場所となり得る場所そのものが減っている。 ・サロン活動などが公民館や学校などで行われるが、アクセスが悪く、自転車に乗れない方や、足が悪い方だと、たどり着くことができない。わくわくバスも手前までしかルートが無い為、どうしても徒歩を強いられる状況。 ・ダイエーの移動販売が人員確保と利用者が少ない事からルートから外れる地域が出てきている。事情は理解できるが、ただ削りだけの状況に対して違和感を覚えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実現は難しいかもしれないが、各地域の拠点を結ぶ移動手段（乗り合いバスなど）の充実。 ・移動販売先の見直しと事業者へのサポートは出来ないのか。 	
15	南行徳第二	<p>インフォーマルならではないかもしれませんが、その場の独特な決まりや新しい人が入りにくい雰囲気等があるようです。紹介しても参加しなかったり、参加しても1回で行かなくなってしまうこともあります。</p> <p>知り合いがいないと参加しにくいと言う方もいます。よほど気になる方以外は同行することは難しく、本人がどう感じたかもわからないことが多く、本人の希望や場所などから紹介した場所が合わない他に代わりの場所がないこともあります。</p> <p>資料にもありましたが、“居場所”は公民館などで行われていることが多く、そこまでのアクセスが悪いと参加しにくいと言われることもありました。</p> <p>“居場所”自体の内容を全て知っているわけではないため、紹介しても本人にとって本当に適切な“居場所”であるのか心配になることもあります。</p>		<p>高サポ内で以下について話が出ましたので参考までに記載します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が必ず行く病院や買い物する場のそばなどに“居場所”があれば、ついでに寄る方もいるのでは？ 交通機関を使ってでも病院には行くので、移動の問題もないのでは？ ・“居場所”を紹介するためのツールを工夫するのはどうでしょう。参加者にどのような人が多いかや参加のきっかけ、参加したあとの感想などの口コミや内容の詳細や特徴を記載したものがあつたりすると、わかりやすくなり、参加したくなる人がいるかもしれません。